

『建築構造ポケットブック_計算例編』

現場必携及び机上版_建築構造ポケットブック参照箇所第5版増補と第6版の対照表

計算例編					ページ	第6版_参照箇所
章節項	ページ	脚注	第5版増補_参照箇所	ページ		
1.2.3	27	† 2	ボ 式 (5.3.1)	197	233	式 (5.3.1)
1.3.1	38	† 1	ボ 表5.3.6 柱端部接合部の許容引張耐力	205	238	表5.3.3 柱端部接合部の許容引張耐力
1.3.6	46	† 8	ボ 表5.1.6 木材のめりこみの基準強度	175	210	表5.1.7 木材のめりこみの基準強度
1.4.1	53	† 1	ボ 5.2.2.B. 柱 (令43)	177	213	5.2.2.B. 柱 (令43)
1.4.4	55	† 3	ボ 表5.1.5 無等級材の基準強度	175	209	表5.1.5 無等級材の基準強度
1.4.5	57	† 3	ボ 表5.1.1 繊維方向の許容応力度	173	207	表5.1.1 繊維方向の許容応力度
1.4.5	57	† 3	ボ 表5.1.5 無等級材の基準強度	175	209	表5.1.5 無等級材の基準強度
2.1	66	† 1	ボ 6.7.1 付着	294-297	335-339	6.7.1 付着
2.1.3	66	† 2	ボ 図6.9.13 大梁の重ね継手,定着および余長	322	365	図6.9.13 大梁の重ね継手,定着および余長
2.1.4	68	† 3	ボ 式 (6.7.1)	294	335	式 (6.7.1)
2.1.4	69	† 5	ボ 表6.1.5鉄筋コンクリートに対する許容付着応力度,(a)RC規準(2010)	212	272	表6.1.5 鉄筋コンクリートに対する許容付着応力度,(a)RC規準(2018)
2.1.4	69	† 6	ボ 式(6.7.2)	294	335	式 (6.7.2)
2.1.4	69	† 7	ボ 図6.7.1 付着検定断面位置およびカットオフされた鉄筋の付着長さ	295	336	図6.7.1 付着検定断面位置およびカットオフされた鉄筋の付着長さ
2.1.4	72	† 10	ボ 表6.1.6 鉄筋の許容応力度	213	273	表6.1.6 鉄筋の許容応力度
2.1.4	73	† 12	ボ 式 (6.7.3)	295	336	式 (6.7.3)
2.1.4	73	† 13	ボ 式 (6.7.4)	295	336	式 (6.7.4)
2.1.4	75	† 14	ボ 表6.1.6 鉄筋の許容応力度	213	273	表6.1.6 鉄筋の許容応力度
2.1.4	77	† 18	ボ 式 (6.7.5) ~ (6.7.7)	295-296	337	式 (6.7.5) ~ (6.7.7)
2.1.5	85	† 22	ボ 6.7.1E. 構造細則	297	338	6.7.1E. 構造細則
2.3.3	102	† 1	ボ 表4.2.1 材料の重量	154	184	表4.2.1 材料の重量
2.3.4	102	† 2	ボ 図6.4.1~6.4.3 床梁応力計算図表	233-235	291-293	図6.4.1~6.4.3 床梁応力計算図表
2.3.4	103	† 3	ボ 表2.6.1 梁の反力, 曲げモーメントおよびたわみ	42-44	46-47	表2.6.1 梁の反力, 曲げモーメントおよびたわみ
2.3.4	104	† 4	ボ 6.4.3 小梁の設計用曲げモーメント	231	290	6.4.3 小梁の設計用曲げモーメント
2.3.4	105	† 5	ボ 表6.1.3 材料の定数	212	272	表6.1.3 材料の定数
2.3.4	106	† 8	ボ 3.5 使用上の支障に関する検討 (H12 建告1459号)	133	136	3.5 使用上の支障に関する検討 (H12 建告1459号)
2.3.5	111	† 11	ボ 表6.3.1 床スラブの厚さの最小値	227	287	表6.3.1 床スラブの厚さの最小値
2.4.1	119	† 1	ボ 式 (6.7.12b)	299	342	式 (6.7.15)
2.4.1	119	† 2	ボ 式 (6.7.12a)	299	341	式 (6.7.14)
2.4.1	119	† 3	ボ 6.9.1A. (3) ④鉄筋の定着	314-316	357-359	6.9.1A. (3) ④鉄筋の定着
2.4.3	119	† 4	ボ 表6.9.5 鉄筋の定着長さ	314	357	表6.9.4 鉄筋の定着長さ
2.4.3	119	† 5	ボ 表6.9.6 投影定着長さ	316	359	表6.9.5 投影定着長さ
2.4.4	119	† 6	ボ 図6.9.13 大梁の重ね継手, 定着および余長	322	365	図6.9.13 大梁の重ね継手, 定着および余長
2.4.4	120	† 7	ボ 表6.7.2 必要定着長さの修正係数	300	342	表6.7.2 必要定着長さの修正係数
2.5.4	125	† 1	ボ 式 (6.6.15) , 式 (6.6.17)	289	-	RC規準 (2010) ,式 (15.11) ,式 (15.13) , pp.153-154
2.5.4	128	† 3	ボ 式 (6.6.14)	289	-	RC規準 (2010) ,式 (15.10) ,p.153
2.5.4	130	† 4	ボ 式 (3.4.23)	115	333	式 (6.6.12)
2.5.4	133	† 5	ボ 式 (3.4.23)	115	333	式 (6.6.12)
2.5.5	135	† 8	ボ 6.6.7 構造細則B. 帯筋	293	332	6.6.3 C.構造細則 帯筋
2.6.4	139	† 1	ボ 式 (6.6.1)	285	326	式 (6.6.1)
2.6.4	140	† 2	ボ 表6.1.4 コンクリートの許容応力度 (a) RC 規準2010	212	272	表6.1.4 コンクリートの許容応力度 (a) RC 規準2018
2.6.4	140	† 3	ボ 式 (6.6.18)	290	329	式 (6.6.7)
2.6.4	141	† 4	ボ 式 (6.6.3)	286	327	式 (6.6.3)
2.6.4	142	† 5	ボ 式 (6.6.19)	291	330	式 (6.6.8)
2.6.4	143	† 7	ボ 式 (3.4.16)	113	-	解説書 (2007) , (付1.3-6) , p624
2.6.4	143	† 8	ボ 式 (6.6.20) ,	291	330	式 (6.6.9)
2.6.4	144	† 9	ボ 式 (3.4.4)	110	305	式 (6.4.6)
2.7.5	150	† 1	ボ 式 (6.8.2) ~ (6.8.11)	302	345	式 (6.8.2) ~ (6.8.6)
2.7.5	152	† 4	ボ 式 (3.4.28)	117	-	解説書(2007), (付1.3-37) , p638
2.8.4	157	† 1	ボ 式 (3.4.9)	111	-	解説書(2007), (付1.3-10) (付1.3-11) (付1.3-12) , p626
2.8.4	158	† 3	ボ 式 (3.4.20)	115	331	式 (6.6.11)
2.9.4	162	† 1	ボ 式 (6.8.20) , (6.8.21)	307	350-351	式 (6.8.15) , (6.8.16)
2.9.4	163	† 2	ボ 式 (6.8.10)	302	345	式 (6.8.5)
2.9.4	163	† 3	ボ 式 (6.8.11)	302	345	式 (6.8.6)
2.10.4	169	† 2	ボ 式 (6.8.2) ~ (6.8.11)	302-303	345	式 (6.8.2) ~ (6.8.6)

計算例編					ページ	第6版_参照箇所
章節項	ページ	脚注	第5版増補_参照箇所	ページ		
3.1.1	173	† 1	ボ 表 7.11.12～表 7.11.16 (筋かい継手)	456-459	485-493	表 7.11.12～表 7.11.16 (筋かい継手)
3.1.3	174	† 2	ボ 式 (3.1.16), 表 7.2.1, 表 7.2.5	92,353-359	481,395,401	式 (7.11.3), 表 7.2.1, 表 7.2.5
3.1.4	175	† 3	ボ 式 (7.5.2), 表 7.9.3	367,409	409,437	式 (7.5.2), 表 7.9.3
3.1.4	175	† 4	ボ 表 7.5.2	367	409	表 7.5.2
3.1.4	176	† 5	ボ 式 (3.1.17)	92	481	式 (7.11.4)
3.1.4	176	† 6	ボ 式 (3.1.20)	92	481	式 (7.11.7)
3.1.4	176	† 7	ボ 式 (3.1.19)	92	481	式 (7.11.6)
3.1.4	177	† 9	ボ 式 (3.1.23)	93	482	式 (7.11.10)
3.1.4	177	† 10	ボ 式 (3.1.22)	93	482	式 (7.11.9)
3.1.4	178	† 11	ボ 式 (3.1.25)	93	482	式 (7.11.12)
3.1.4	178	† 12	ボ 式 (3.1.24)	93	482	式 (7.11.11)
3.1.4	179	† 13	ボ 式 (3.1.27)	93	482	式 (7.11.14)
3.1.4	179	† 14	ボ 式 (3.1.26)	93	482	式 (7.11.13)
3.1.4	180	† 15	ボ 式 (3.1.29)	93	483	式 (7.11.16)
3.1.4	180	† 16	ボ 式 (3.1.28)	93	483	式 (7.11.15)
3.2.4	184	† 1	ボ 式 (3.4.31)	118	542	式 (7.17.2)
3.2.4	185	† 3	ボ 7.11.1A. 設計応力	417	445	7.11.1A. 設計応力
3.3.1	188	† 1	ボ 3.1.3B. S造 (1)	91-92	101-103	3.1.3B. S造 (1)
3.3.2	188	† 2	ボ 式 (3.1.33)	94	116	式 (3.2.9)
3.3.2	188	† 3	ボ 3.1.3B. S造 (3) ②	95	116	3.2.4B. S造 (1) ⑤ b)
3.3.2	188	† 4	ボ 式 (3.1.32)	94	116	式 (3.2.8)
3.3.4	189	† 5	ボ 式 (3.4.31)	118	542	式 (7.17.2)
3.3.4	190	† 6	ボ 表 7.16.6	476-481	512-517	表 7.16.6
3.3.4	190	† 7	ボ 3.1.3B. (3) 梁の保有耐力横補剛②表 3.1.4	94	116	3.2.4B. (1) ⑤梁の保有耐力横補剛 b)表 3.2.4
3.3.4	191	† 8	ボ 式 (3.1.33)	94	116	式 (3.2.9)
3.3.4	191	† 9	ボ 2.1 断面の性質, 表 7.16.6	29,481	33,512-517	2.1 断面の性質, 表 7.16.6
3.3.4	192	† 10	ボ 7.2.1 構造用鋼材	351-354	394-396	7.2.1 構造用鋼材
3.3.4	194	† 12	ボ 式 (3.1.32)	94	116	式 (3.2.8)
3.3.4	196	† 13	ボ 7.6.4 支点の補剛	372	414	7.6.4 支点の補剛
3.3.4	197	† 14	ボ 表 7.9.3 高力ボルトの許容耐力表	409	437	表 7.9.3 高力ボルトの許容耐力表
3.3.4	198	† 15	ボ 表 6.1.3 材料の定数	212	272	表 6.1.3 材料の定数
3.3.4	198	† 17	ボ 式 (7.13.6)	462	497	式 (7.13.6)
3.4.1	203	† 1	ボ 3.1.3B. (1) 構造計算ルート② k) および③ j)	91	102	3.1.3B. (1) 構造計算ルート② k) および③ k)
3.4.1	203	† 2	ボ 7.8 計算例	401	-	解説書(2020),設計例-1,pp646-650
3.4.2	203	† 3	ボ 7.8.1B. 根巻型柱脚の要件	392	425	7.8.1B. 根巻型柱脚の要件
3.4.3	203	† 4	ボ 7.8.1B. 根巻型柱脚の要件	392	425	7.8.1B. 根巻型柱脚の要件
3.4.4	205	† 5	ボ 表 7.2.1 許容応力度 (1)	353	395-396	表 7.2.1 許容応力度 (1)
3.4.4	207	† 6	ボ 表 2.7.3	59	64	表 2.7.3
3.5.1	212	† 1	ボ 3.1.3B. (1) 構造計算ルート② j) および③ i)	91	102	3.1.3B. (1) 構造計算ルート② j) および③ j)
3.5.4	217	† 4	ボ 式 (7.3.5)	361	403	式 (7.3.5)
3.6.1	218	† 1	ボ 7.13 合成梁	461	495	7.13 合成梁
3.6.2	218	† 2	ボ 6.2.1 T型断面部材のスラブの有効幅	214	274	6.2.1 T型断面部材のスラブの有効幅
3.6.4	220	† 3	ボ 6.2.1 T型断面部材のスラブ有効幅	214	274	6.2.1 T型断面部材のスラブ有効幅
3.6.4	220	† 4	ボ 式 (6.2.2)	214	274	式 (6.2.2)
3.6.4	221	† 6	ボ 6.2.4 ヤング係数比	215	279	6.2.4 ヤング係数比
3.6.4	222	† 7	ボ 式 (7.13.2)	461	496	式 (7.13.2)
3.7.2	225	† 1	ボ 7.13.2 スタッドコネクタの設計	461	496	7.13.2 スタッドコネクタの設計
3.7.4	226	† 2	ボ 式 (7.13.3) および式 (7.13.4)	461-462	496	式 (7.13.3) および式 (7.13.4)
3.7.4	226	† 3	ボ 7.13.2B. スタッドコネクタのせん断耐力	462-463	497	7.13.2B. スタッドコネクタのせん断耐力
3.7.4	226	† 4	ボ 式 (7.13.7) による	463	498	式 (7.13.7) による
3.8.2	230	† 1	ボ 表 7.2.1 許容応力度 (1)	353	395-396	表 7.2.1 許容応力度 (1)
3.9.1	235	† 2	ボ 表 7.11.3 塑性設計におけるパネル設計の厳しさの比較	427	-	S 規準(2019), 14.12 剛接合柱はり接合部, p.112.
3.9.4	236	† 3	ボ 式 (7.11.1)	426	-	S 規準(2019), 14.12.1式, p.112
3.10.1	239	† 1	ボ 7.7.4 有孔梁の補強	387	-	掲載なし
3.10.4	241	† 3	ボ 式 (7.7.9)	387	-	掲載なし
3.10.4	241	† 4	ボ 式 (7.7.13)	389	-	掲載なし

章節項	ページ	脚注	計算例編		ページ	第6版_参照箇所	
			第5版増補_参照箇所	ページ			
4.1.1	247	† 1	ボ	10.9.1B. 構造細則	666-667	723-728	10.9.1 独立フーチング基礎A～Dを参照
4.1.4	249	† 2	ボ	図10.9.3 基礎接地圧の算定	668	726	図10.9.3 ξ 、 ξ' の算定図
4.1.5	250	† 3	ボ	図10.9.4 長方形独立基礎スラブの応力計算図表	669	727	図10.9.4 設計用応力 M_F 、 Q_F 算定図（偏心がある場合）
4.1.5	250	† 4	ボ	図10.9.5 長方形独立基礎スラブの応力計算図表（偏心がない場合）	670	728	図10.9.5 設計用応力 M_F 、 Q_F 算定図（偏心がない場合）
4.1.5	251	† 5	ボ	式(10.9.1), 許容せん断力	665	723	式(10.9.1), 許容せん断力
4.1.5	251	† 6	ボ	式(10.9.2), 許容曲げ応力度	665	724	式(10.9.2), 許容曲げモーメント
4.1.5	252	† 8	ボ	式(10.9.4), 付着の検定	665	724	式(10.9.4), 付着の検定
4.1.5	252	† 9	ボ	式(10.9.5), パンチングシャーに対する許容せん断力	665	724	式(10.9.5), パンチングシアに対する許容せん断力
4.1.5	253	† 10	ボ	図10.9.6 杭頭補強例（既製コンクリート杭）	671	731	図10.9.7 杭頭補強例（既製コンクリート杭）
4.1.5	254	† 11	ボ	図6.9.25 独立基礎の配筋	328	371	図6.9.25 独立基礎の配筋
4.2.3	256	† 1	ボ	図10.9.6 杭頭補強例（既製コンクリート杭）< B形>	671	731	図10.9.7 杭頭補強例（既製コンクリート杭）< B形>
4.2.3	258	† 2	ボ	表10.6.7	611	666-667	10.6.2A.既製コンクリート杭, (1)杭の最小間隔
4.2.3	258	† 3	ボ	表6.1.5 鉄筋のコンクリートに対する許容付着応力度	212-213	272-273	表6.1.5 鉄筋のコンクリートに対する許容付着応力度
4.2.4	261	† 4	ボ	式(10.9.4), 付着の検定	665	724	式(10.9.4), 付着の検定
4.3.3	268	† 1	ボ	表6.1.5 鉄筋のコンクリートに対する許容付着応力度	212-213	272-273	表6.1.5 鉄筋のコンクリートに対する許容付着応力度
4.3.6	272	† 2	ボ	図10.9.6 杭頭補強例（既製コンクリート杭）< A形>	671	731	図10.9.7 杭頭補強例（既製コンクリート杭）< A形>
4.3.6	272	† 3	ボ	図10.9.6 杭頭補強例（既製コンクリート杭）< B形>	671	731	図10.9.7 杭頭補強例（既製コンクリート杭）< B形>
4.3.6	273	† 4	ボ	図10.9.7 杭頭補強例（既製コンクリート杭）	671	732	図10.9.8 杭頭補強例（既製コンクリート杭）
4.3.7	273	† 6	ボ	図10.9.6 杭頭補強例（既製コンクリート杭）を準用	671	731	図10.9.7 杭頭補強例（既製コンクリート杭）を準用
4.5.4	292	† 1	ボ	図6.3.1 等分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ	221	281	図6.3.1 等分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ
4.5.4	293	† 2	ボ	図6.3.6 等分布荷重時3辺固定1辺単純支持スラブの応力図と中央点のたわみ	226	286	図6.3.6 等分布荷重時3辺固定1辺単純支持スラブの応力図と中央点のたわみ
4.5.4	293	† 3	ボ	表6.3.2	227	287	表6.3.2 スラブの配筋
4.5.8	299	† 4	ボ	表2.7.2 有効剛比	55	60	表2.7.3 有効剛比
4.7.3	306	† 1	ボ	表10.10.4 地表面載荷重	676	738	表10.10.4 地表面載荷重
4.7.5	309	† 2	ボ	図6.3.1 等分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ	221	281	図6.3.1 等分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ
4.7.5	309	† 3	ボ	図6.3.5 等変分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ	225	285	図6.3.5 等変分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ
4.7.5	310	† 4	ボ	式(6.3.2)	220	280	式(6.3.2)
4.7.6	311	† 5	ボ	6.9.5A. 一般事項, 図6.9.33	331-332	375	6.9.5A. 一般事項, 図6.9.33
4.8.5	314	† 1	ボ	図6.3.1 等分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ	221	281	図6.3.1 等分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ
4.8.5	314	† 2	ボ	図6.3.5 等変分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ	225	285	図6.3.5 等変分布荷重時4辺固定スラブの応力図と中央点のたわみ
4.8.5	315	† 3	ボ	式(3.4.4)	110	305	式(6.4.6)
4.8.6	317	† 4	ボ	10.7.1 地盤の液状化に対する検討	622-625	684-688	10.7.1 地盤の液状化に対する検討
4.9.4	323	† 2	ボ	表10.1.4 東京付近の地盤の土の基本的性質	580	636	表10.2.4 東京付近の地盤の土の基本的性質
4.9.6	324	† 3	ボ	10.7.1 地盤の液状化に対する検討	622-625	684-687	10.7.1 地盤の液状化に対する検討
4.9.6	326	† 4	ボ	図10.7.1 細粒分含有率と補正N値増分 ΔN_f の関係	624	685	図10.7.1 細粒分含有率と補正N値増分 ΔN_f の関係
4.9.7	328	† 5	ボ	図10.7.2 補正N値(N_a)と飽和土層の液状化抵抗比 τ_1/σ_z の関係	624	685	図10.7.2 補正N値と液状化抵抗比,動的せん断ひずみの関係
5.1.4	339	† 1	ボ	表 4.5.3 Z_b , Z_G , α の値	160	193	表 4.5.3 Z_b , Z_G , α の値
5.4.4	356	† 1	ボ	9.3 コンクリートブロック帳壁構造	554~557	604-606	9.3 コンクリートブロック帳壁
5.4.4	356	† 2	ボ	表 9.3.2 一般帳壁の配筋	555	605	表 9.3.2 一般帳壁の配筋
5.4.4	357	† 4	ボ	表 6.9.9 異形棒鋼の断面積および周長表	342	384	表 6.9.8 異形棒鋼の断面積および周長表
5.4.5	358	† 5	ボ	表 9.3.3 小壁帳壁の配筋	556	605	表 9.3.3 小壁帳壁の配筋
5.4.5	359	† 6	ボ	表 4.2.2 建築物各部の重量 (令 84)	156	187	表 4.2.2 建築物各部の重量
5.5.5	366	† 3	ボ	表 7.2.1 許容応力度 (1) の引張	353	395	表 7.2.1 許容応力度 (1) の引張り
5.5.5	366	† 4	ボ	式 7.3.5 組合せ応力を受ける鋼材	361	403	式 7.3.5 組合せ応力を受ける鋼材
5.5.5	366	† 5	ボ	表6.1.5鉄筋のコンクリートに対する許容付着応力度	212	272	表6.1.5 鉄筋のコンクリートに対する許容付着応力度,(a)RC規準(2018)

計算例編					ページ	第6版_参照箇所
章節項	ページ	脚注	第5版増補_参照箇所	ページ		
5.5.6	367	† 6	ボ 表 7.2.1 許容応力度 (1) の支圧	353	395	表 7.2.1 許容応力度 (1) の支圧
5.6.5	371	† 3	ボ 式 12.5.3 接着系アンカー	778	807	式 13.1.2 接着系アンカー
5.6.5	371	† 4	ボ 表 7.2.1 許容応力度 (1) の基準強度	353	395	表 7.2.1 許容応力度 (1) の基準強度
5.6.5	373	† 7	ボ 式 12.5.6 接着系アンカー	779	807	式 13.1.5 接着系アンカー
5.6.5	374	† 8	ボ 表 6.1.3 材料の定数	212	272	表 6.1.3 材料の定数
5.7.5	378	† 2	ボ 表 7.16.9 (2) 角形鋼管 (長方形)	492	530	表 7.16.11角形鋼管の寸法、単位質量および断面特性 (2) 長方形
5.7.5	379	† 3	ボ 式 7.6.2 および表 7.6.2 材の座屈長さ lk の値	369	411-412	式 7.6.2 細長比および表 7.6.2 材の座屈長さ lk の値
5.7.5	379	† 4	ボ 図 7.2.1 $F = 235 \text{ N/mm}^2$ 鋼材の長期許容曲げ応力度	356	399	図 7.2.1 $F = 235 \text{ N/mm}^2$ 鋼材の長期許容曲げ応力度
5.7.5	379	† 5	ボ 表 7.16.9 一般構造用炭素鋼管	486	524	表 7.16.10一般構造用炭素鋼管の寸法、単位質量および断面特性
5.7.5	381	† 6	ボ 式 12.5.4 金属系アンカー	779	807	式 13.1.3 金属系アンカー
5.7.5	381	† 8	ボ 表 7.2.1 許容応力度 (1) の基準強度	353	395	表 7.2.1 許容応力度 (1) の基準強度
5.7.6	386	† 9	ボ 表 7.16.9 角形鋼管 (正方形)	490	528	表 7.16.11角形鋼管の寸法、単位質量および断面特性 (1) 正方形
5.7.6	388	† 10	ボ 表 7.2.3 $F = 235 \text{ N/mm}^2$ 鋼材の長期許容圧縮応力度	355	397	表 7.2.3 $F = 235 \text{ N/mm}^2$ 鋼材の長期許容圧縮応力度
5.7.6	390	† 11	ボ 表 7.2.1 許容応力度 (1) の引張	353	395	表 7.2.1 許容応力度 (1) の引張り